
角

猫舌ソーセージ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

角

【Nコード】

N3721E

【作者名】

猫舌ソーセージ

【あらすじ】

アナタの好きなタイプはどんな人ですか？私の好きなタイプは――

(前書き)

軽く読める小説です。平和な気持ち、暖かい気持ちになっ
てもらえたらなと思います。

今、アナタに好きな人はいますか？

アナタの好きな人はどんなタイプの人ですか？

人それぞれ好みのタイプは違うけど、私の好きなタイプは――。

私は三島裕子。高校一年生。

「ゆっこおー、おっはよう」

そして私に向かって明るく挨拶をする、ツインテールの髪型がトレードマークの幸恵。あだなはさっちゃん。私達は小学校以来の親友だ。

「ねえねえゆっこお。知ってる？ 今日転校生が来るらしいよ」

転校生。男の子かな女の子かな。

「男の子だったらいいなあー。ジャニーズ系のイケメン！ そういえば、ゆっこはどんな男の子がタイプなの？」

「私？ 私はもちろん立派な角が生えている人よ」

「そっかー。……え？」

さっちゃんがなんか驚いたような引いてるような微妙な顔をしている。どうしたんだろう。

「角って……もしかして下ネタ？」

「何言ってるんのさっちゃん、角は角でしょー。頭に生えてる角よ」
本当にさっちゃんは下ネタばかりだ。

「……あはは、冗談ばかりー」

さっちゃんは苦笑いしていた。

そして朝のホームルーム。噂通り、転校生はやってきた。

「えっ!!」

転校生の姿を見てさっちゃんが大声を上げる。

「ちょっとさっちゃん、どうしたのよいきなり」

私は小声でさっちゃんに聞く。

「え、だ、だって……つ、角が」

現れた転校生。それは男の子だった。そして頭には立派な角。

「やばい、タイプかも」

「え!?! な、なに言ってるのゆっこ!?! 角よ角! 人間に角が

――」

「こら、幸恵! うるさいぞ!」

先生が騒ぐ幸恵を注意する。全く幸恵には困ったものだ。

「ええ!?! せ、先生! 角ですよ!?! なんで? ちよつと、な

んでクラスの間みんなもそんな普通にしてるのよっ!」

さっちゃん一人が異様に興奮している。一体どうしたというのだろ

う。

「はあ……、満君、確か保険委員だったな。幸恵さんを保健室に連れて行ってあげなさい」

「はい」

先生はさっちゃんの様子のおかしさを悟り、保険委員でイケメンの満君に保健室に連れて行くように促す。すると、さっちゃんは

「あ、み、満君。あ、あの、どうも」

「うん、行こう」

まんざらでもない顔だった。ははーん、さっちゃんめ。これを狙っていたんだな。

「よーし、じゃー改めて紹介するぞー。今日からお前らの仲間になる角田 角次郎君だ。ちなみに長男だ」

「ご紹介を受けました、角次郎です。皆さん宜しく願います。ちなみに長男です」

か、かつこいい。なんて立派な角なんだろう。白く鋭く尖っていて、硬くておっきい……。ジュンとしちゃう。

「よし、じゃあ角次郎君の席は……。お、三島のとなりの席が空いてるな」

えっ！ 私のとなり！？ やったーっ！

「三島さん、よろしく」

「は、はいっ！」

角田君は、爽やかな笑顔で私に挨拶すると、となりの席に座った。

はあ……。はあ……。なんて素敵な角なんだろう。こんな角見た事ない。これは運命の出会いだわ。絶対、そうに違いない。私は食い入るように角田君を見続けた。

授業中。角田君はたびたび角を両手でさすっていた。なんてさり心地の良さそうな角なんだろう。

昼食の時間。私は角田君と保健室から帰ってきたさっちんと一緒に机をくつつけてお弁当を食べる。

「ね、ねえ。その角って本物なの？」

さっちんがおそろおそろ失礼な事を言っている。

「あはは、幸子さんって面白い人だね」

む、角田君が笑っている。さっちんめ、いくら友達でも私の恋する相手を奪うなんて許さないからね。

昼食も終わって、昼休み。角田君は机に向かって角をこすりつけていた。一体何をしているのだろう。

「くっ！ ふっ！ このっ！」

なんか戦っているみたいだ。

「ふう……。勝った」

勝ったみたいだ。

「おめでとう」

「ありがとう」

私達は握手をする。

「ふふふ」

「あはは」

幸せな笑い声が教室中に響き渡った。

そして五年後、私達は結婚した。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3721e/>

角

2010年10月15日20時50分発行